



あっちの話

埼玉から

牛乳でパワーアップ！

米ヌカ除草

宮本奈緒

埼玉県「棚田の学校」では都市部の人を招き、約2反の棚田で農薬を使わずにお米をつくっています。校長の平沼義友さんは米ヌカや乳酸菌の力で雑草を退治するオリジナルの「米ヌカ除草」に取り組み、効果抜群だったそうです。

まずは米ヌカ10kg、牛乳3ℓと水3ℓを漬物樽に入れて混ぜます。フタをして1週間待てば、乳酸菌が殖えて酸っぱいニオイがするようになります。これをまんじゅう大の大きさに握って2反の田んぼに投げ入れます。水中では好気性菌が酸素を使って米ヌカを分解し一時的に酸欠状態となるうえに、乳酸菌が有機酸

をつくりだすので、雑草の生育を抑えてくれるのです。

米ヌカ除草を成功させるポイントは、まくタイミングと水管理。雑草のタネが発芽する前に、田植え後すぐと半月後の2回まくようにしています。水深は、土用干し

まで5cm以上。米ヌカが混ざった水を漏らさないよう、田んぼの縁にぐるりとアゼシートを敷いています。

米ヌカ除草に取り組んだ結果、雑草が減り、それまで2反で700kgだった収量が、3年目には1tを超えるようになったそうです。



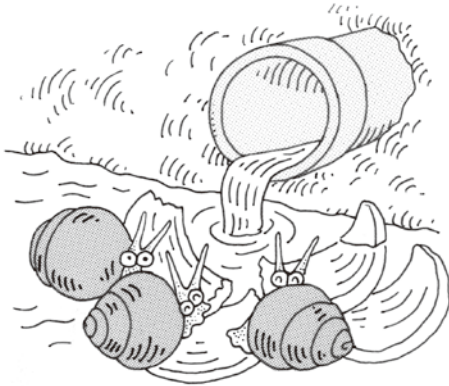


佐賀から

タマネギでジャンボタニシのスポット防除

板垣紫乃

伊万里市のタマネギ農家、草野忠幸さんに『現代農業』2015年6月号「ジャンボタニシ 大好物のタケノコで一網打尽」の記事を紹介すると、「俺はタマネギ食わして、集まって



きたところに薬まいてやつつける」と教えてくれました。ジャンボタニシが好きなのは、タケノコだけじゃないようです。

植え代かきを終えたら、バラバラにほぐしたタマネギ2〜3個分を水口に投入。翌日にはジャンボタニシがぞろぞろ集まってくるので、そこをねらってスクミノンなどの農薬をまけば、効率よく駆除できるのです。タマネギは腐っているのもよく、直前にほぐしたほうが強いニオイが出て集まりやすいそうです。草野さんはこの方法を10年続けていて、ジャンボタニシに悩むことはないと言っていました。

ジャンボタニシを集める方法は他にもいろいろあって、佐賀の戸野保さんは家庭から出る野菜クズを、徳島の服部芳昭さんは段ボールをエサにしています。



あっちの話

岩手から

片栗粉と納豆のネバネバで病害虫退治

向井道彦

2 haの畑で無農薬野菜をつくる盛岡市の澤口恭志^{きょうじ}さんは、アブラムシとうどんこ病を片栗粉と納豆を使って一度に退治しています。

まずは鍋で1ℓの湯をつくり、片栗粉約100gを溶いて糊化したトロトロの状態にします。人肌に冷ましたらザルを沈め、納豆1パックをあけてかき混ぜ、ネバネバだけを溶かし出します。あとは合計の量が20ℓとなるように水を足せば完成です。

澤口さんは特にアブラムシがつきやすいアブラナ科の野菜の苗に使っています。晴れた昼頃にまけば、乾いた片栗粉がアブラムシの気門を塞いでしまうので、農薬を使わなくても退治できるのです。以前は牛乳を使っていましたが、牛乳はニオイがキツイし乾きにくいので片栗粉に変えたそうです。一緒にまく納豆菌の力なの

か、定植してからうどんこ病にかかりにくくなったと効果を感じています。





佐賀から

かん水チューブを浮かせるとモグラが来ない!?

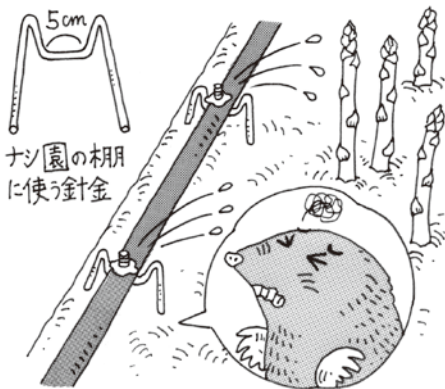
香川貴文

アスパラガスを反当4メートルとったこともある伊万里市の中井義人さんは「土をよくしてくれる宝だ」とミミズを大切にしています。土壌改良のために発酵させたおからや河川敷の草をウネにまいていますが、それを食べるにミミズが這い出てきます。ウネの表面がまるで波打つように動くのが見えるほど。でもそれを狙ってか、モグラが畑を荒らしてしまうのが悩みでした。

モグラの掘った穴が原因で株が枯れることや、ウネの端に置いたかん水チューブが動かされ水が擬葉に当たり、茎枯病の原因になることもあります。チューブを置いた場所の下にモグラは通路をつくりやすいと見抜いた中井さんは、針金を使ってチューブを浮かせることにしました。

M字に曲げた針金を40cm間隔で土に挿し込み、窪みにチューブを固定して地面から離しま

す。するとモグラが出る回数がグッと減ったのです。また、中井さんはアスパラガスの芽が出やすいように年に3回、ドライバーで深さ10〜20cmほどの土をほぐしますが、これもモグラの通路を破壊することになっているのではと考えています。





あっちの話

山口から

「百姓の敵」の雑草に目をつけて、野草茶

江崎嵩弘

長門市の若月靖子さんは、野草茶で地域の^{ながと}人を元気にしています。乾燥させたスギナを煮出してつくるスギナ茶で自らの膀胱炎を治してか



らというもの、夫の加齢臭をナタマメ茶で抑えたり、ドクダミ茶でお通じをよくしたりしています。そうした体験談と一緒に、ホタル飛び交う里山でとれた野草のお茶として無人販売所に出しているうちに、近所の方も野草茶を売るようになりました。

じつは東京からの移住者である靖子さん。12年ほど前に越してきたとき、近所の方が庭に生えたスギナを「この雑草は百姓の敵なの」といっていたことが、野草に目を向けるきっかけになったんだとか。百姓をそこまで悩ませる野草には、すごい成分があるんじゃないかと思ったそうです。今では俵山ハーブと野草茶の会のグループを5人で立ち上げ、里山からとれる野草を原料に、オリジナルのブレンド茶を加工・販売しています。